

公立学校情報機器整備事業に係る各種計画

令和7年3月

帯広市教育委員会

目次

(1) 別添1	端末整備・更新計画	1
(2) 別添2	ネットワーク整備計画	2
(3) 別添3	校務DX計画	3
(4) 別添4	1人1台端末の利活用に係る計画	4

(別添 1)

【帯広市】
端末整備・更新計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和10年度
①児童生徒数	11, 224	10, 995	10, 762	10, 406	10, 086
②予備機を含む 整備上限台数	12, 907	12, 644	12, 376	11, 966	11, 598
③整備台数 (予備機除く)	0	4, 228	3, 089	3, 089	0
④③のうち 基金事業によるもの	0	4, 228	3, 089	3, 089	0
⑤累積更新率	0	38. 5%	68. 0%	100. 0%	103. 2%
⑥予備機整台数	0	211	308	1, 041	0
⑦⑥のうち 基金事業によるもの	0	211	308	1, 041	0
⑧予備機整備率	0	5. 0	10. 0	33. 7	

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する

1. 端末の整備・更新計画の考え方

令和 7 年度から令和 9 年度にかけて全端末を更新する予定である。なお、予備端末は更新後におけるバッテリーの劣化等を考慮した計画的な整備を行う予定である。

2. 更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について

(1) 対象台数

12, 165 台

(2) 処分方法

- ・ 小型家電リサイクル法の認定事業者へ再使用・再資源化を委託：10, 665 台
- ・ 学校での活用（更新前端末の故障時における予備端末として活用）：1, 500 台

(3) 端末のデータの消去方法

- ・ 処分事業者へ委託する

(4) スケジュール（予定）

- ・ 令和 8 年 2 ～ 3 月 令和 7 年度調達端末の納品、使用済み端末の回収・廃棄
- ・ 令和 8 年 4 月 令和 7 年度調達端末の使用開始
- ・ 令和 9 年 2 ～ 3 月 令和 8 年度調達端末の納品、使用済み端末の回収・廃棄
- ・ 令和 9 年 4 月 令和 8 年度調達端末の使用開始
- ・ 令和10年 2 ～ 3 月 令和 9 年度調達端末の納品、使用済み端末の回収・廃棄
- ・ 令和10年 4 月 令和 9 年度調達端末の使用開始

(別添 2)

【帯広市】
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

39 校中 7 校（約 17.9％）※令和 6 年 1 月時点

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

（1）ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

文部科学省が令和 5 年 11 月に実施した「校内ネットワーク環境整備等に関する調査」やネットワーク環境の保守契約業者による簡易帯域測定などによる簡易的なネットワークアセスメントから、本市一部の小中学校において、回線サービスの見直し等が必要であると認識している。

今後は、文部科学省の「公立学校情報機器整備事業に係る各種計画の策定要領」等を参考に推奨帯域を達成できるよう令和 7 年度中に課題特定を完了させる。

（2）ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

これまで行った帯域測定結果を主な検証課題とし、整理した課題等を踏まえ、順次改善策の検討を開始し、令和 10 年度までに対応策を完了する。

（3）ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

（2）で特定された課題に基づき、回線サービスの見直しが必要と判断した場合には、より詳細なネットワークアセスメントの実施も含め、適宜対応を行うもの。

(別添 3)

【帯広市】
校務ＤＸ計画

１．校務ＤＸを推進する上での現状と課題

「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務ＤＸ化チェックリスト」による自己点検の結果、職員会議等の資料の共有や、教職員間の情報共有、教職員への調査・アンケート等において、クラウドサービス等の活用が浸透しつつある。

また、校務支援システムの運用による業務効率化や、欠席連絡のデジタル化等校務の効率化に取り組んできており、教職員の働き方改革（教職員の負担軽減）をさらに進めるため、校務の効率化に向けたＩＣＴの一層の活用に取り組む必要がある。

２．校務の効率化に向けた校務ＤＸの推進

- ・校務支援システムや、クラウドツールなど、学校の実態を考慮してＩＣＴを効果的に活用した教育活動や業務をすすめ、校務の効率化による事務作業の負担軽減を図る。
- ・教職員の働き方改革の観点から、ＩＣＴを積極的に活用した業務を推進する。

３．校務改善を進める上での留意点

- ・国の施策を勘案し、帯広市の実情に応じた学校教育の情報化のための取組を進める。
- ・ＩＣＴ活用の方針や使用ルールなどについて、関係者の共通理解の促進を図る。

(別添 4)

【帯広市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」で示された個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実するため、1人1台端末等を円滑に活用した児童生徒への学習指導・生徒指導等の取組を進める。

また、児童生徒・学校・教育委員会が、それぞれの立場から1人1台端末や校務支援システム等に蓄積された教育データを効果的に利活用することにより、児童生徒の学習等のサポート、教職員による個に応じた指導や支援の充実、新たな知見の創出、教育計画への反映等を目指す。

2. GIGA第1期の総括

コロナ禍において全ての児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を実現するため、令和3年度までに1人1台端末と通信ネットワーク環境を集中的に整備したほか、ICTヘルプデスクの設置などGIGAスクール構想に基づく整備を推進してきた。

また、児童生徒の学習の基盤となる情報活用能力の育成を目指すため、各校を巡回支援する「おびGIGA支援員」や、教育研究所作成の学習コンテンツ等について積極的に活用してきたほか、「双方向性のあるプログラミングコンテンツ」の導入等による学びの充実に努めてきた。

今後においては、授業や家庭における1人1台端末の利活用の推進に向けて、教職員を対象としたICT研修の更なる充実のほか、児童生徒の学びの機会を保障するために予備端末の整備と活用を図っていく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 総論

児童生徒が1人1台端末を最大限に活用できるよう、教職員による対面指導での活用のほか、端末の持ち帰りによる家庭や地域社会とも連携した遠隔・オンライン教育での活用など、これまでの実践とICTとを最適に組み合わせることで、学校教育における様々な課題を解決するとともに、教育の質の向上に努める。

(2) 1人1台端末の積極的活用

1人1台端末等のICT機器については、授業における教職員の指導のツールとしてのみ活用するのではなく、児童生徒が主体的に学ぶためのツールとして積極的に利活用の推進を図ることで、児童生徒の資質・能力の育成を図る。

また、情報モラルの必要性や情報化社会での行動の在り方等について考えさせることで、児童生徒のメディアリテラシー能力を高めながら、情報化社会の創造に参画する望ましい態度を育てていく。

児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現や情報活用能力等の育成に向けては、教職員のICT活用指導力の向上が重要であることから、教職員を対象としたICT研修の充実や「おびGIGA支援員」の配置等を継続していく。

（３）個別最適・協働的な学びの充実

授業支援ソフトの活用等を通じて、学習状況の可視化による個別最適な学びの実現や、他の児童生徒の考え方を共有することで協働的な学びの充実を図る。

また、ＩＣＴを活用することで、障害等により特別な配慮や支援が必要な児童生徒に対するきめ細かな対応を図り、個別最適な指導や支援に努める。

（４）学びの保障

端末が故障した場合等における予備端末の活用や速やかなサポート体制の構築のほか、感染症等に起因した学級閉鎖等の際に家庭における１人１台端末を活用した学びを保障するための環境整備を行う。

また、様々な理由により不登校となっている児童生徒を対象としたＩＣＴを活用した学びのプラットフォームの提供や、オンライン講座の活用等を通じて、不登校児童の多様な学びの機会を確保し、社会的自立に繋げていく。

心の健康観察アプリを活用して、生徒の心や心身の状態の把握・支援、いじめや不登校の予兆について早期発見・支援に繋げていく。